

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	→
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

設備投資	4年度は増加見込み	5年度は減少見込み	↘
観光	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は増益見込み	↗
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	↗
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	→
公共事業	前年を下回る	前年を上回る	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

スーパー販売は、家計の節約志向の高まりがみられるものの、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、人流の回復などから販売が増加し、前年を上回っている。乗用車販売は、半導体不足の緩和を背景に、受注残の減少や、納期の短縮もみられ、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、医薬品が好調なことから、前年を上回っている。百貨店販売は、人流の回復に伴い、食品、化粧品が順調で、各種催事も来店客数の上積みにも寄与するなど、前年を上回っている。家電販売は、昨年エアコンが好調であった反動減や物価高から買い控えがみられ、前年を下回っている。ホームセンター販売は、春先の天候不順の影響から、前年を下回っている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 節約志向の高まりを受けてプライベートブランドの売上が好調である。また、調理をせず手軽に食べられる弁当や惣菜の売上も大幅に伸びている。(スーパー)
- 春以降は、コロナ5類移行を背景として人の流れが増しており、観光地近くの店舗では、観光客の入込増に伴い売上は増加している。(コンビニエンスストア)
- 直近の受注残は昨年秋以降減少を続けており、受注残は解消傾向にある。(乗用車販売店)
- 医薬品販売は、インフルエンザ流行による解熱剤需要拡大のほか、インバウンド増加により、前年を上回っている。(ドラッグストア)
- 4月、5月は人出が増加し、手土産用のお菓子が伸びたほか、レストランの売上も増加している。また、催事についても好調であった。(百貨店)
- 一昨年の猛暑を受け、昨年夏前にピークであったエアコン購入の動きが、今年は鈍い。(家電量販店)
- 物価の高騰による生活防衛意識の高まりから、家電製品の買い替えを先延ばしとする傾向が感じられる。(家電量販店)
- 全国旅行支援が7月まで延長となり、当該対策の効果により道外からの観光客の増加が顕著と感じる。入館者数はコロナ前までの水準を回復している。(不動産業)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、弱含んでいる。

- 乳価上昇に伴う製品の値上げが販売数量に影響し、生産数量が減少している。(食料品)
- 乗用車製造では半導体の調達環境が改善しているようであるが、建機製造は依然として半導体不足の影響がみられており、生産が回復していないことから、当社製品の販売は回復に至っていない。(鉄鋼業)
- 価格高騰による住宅需要の減少により、業界全体で建築用木材の需要が減少し、在庫が余剰状態にある。(木材・木製品)
- 半導体不足の影響が改善しており、生産及び出荷が増加している。なお、半導体供給が完全に回復する時期は、今のところ不明である。(輸送用機械器具)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は低下しているものの、完全失業率は前年を下回っており、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 新規求人数は前年よりも減少しているものの、企業が物価・エネルギー価格高騰の影響で新たに人を雇いたくても雇えない状況にあり、ほとんどの業種で人手不足は解消していない。(公的機関)
- アルバイトの求人はこれまで各店舗の裁量で行っていたが、求人費用に見合った採用ができていなかった。このため、本部が一括して求人を行うこととし、募集回数も年4回に絞ることとした。(宿泊業、飲食サービス業)
- 特にベッドメイキングスタッフの不足が深刻で、需要があっても客室稼働率を上げられない状態である。新たな委託先も探しているが、どの業者も人手不足であるため実現できていない。(宿泊業、飲食サービス業)

■ **設備投資** 「5年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」などが減少していることから、全体では減少見込みとなっている。

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた活動を進めており、その一環としてバイオマスボイラーの導入や、ソーラーパネルの設置を行う。(輸送用機械器具)
- 老朽化設備・施設の更新を計画的に毎年行っている。前年は、特注品などで年度後半に向けて計画よりも値段がかさんだことから、今年度の計画は減少している。(運輸業、郵便業)
- 前年度は新規店舗の出店を行ったため投資額が大きかったのに対し、今年度は出店計画が無いため反動で大幅に減少している。(宿泊業、飲食サービス業)

■ **観光** 「持ち直しつつある」

- 観光は、来道客数、外国人入国者数がともに前年を上回っており、持ち直しつつある。

- 今期はあらゆる客層が動き、販売額の合計としてはコロナ禍前と同水準まで戻っている。また、いままで海外旅行をしていた層が、円安や海外に行く不安感から、北海道に旅行先をシフトする傾向も見られた。(旅行業)
- 海外からのツアーは韓国や台湾を中心に増え、6月以降も堅調に推移している。また、外国人の個人旅行も増加しており、旅行需要の回復が感じられる。(宿泊業、飲食サービス業)
- 今期は、感染症の落ち着きにより、旅行や帰省の機運が高まるなか、各種イベントやコンサートが開催されたことで、コロナ禍前と比べて9割の旅客数をキープするなど好調であった。先行きも、夏休み期間は既に予約が入っており、堅調に推移していく見通しである。(運輸業、郵便業)

■ **企業収益** 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設業」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(5年4-6月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。
なお、先行きは、「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱い動きとなっている」

- 住宅建設は、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、弱い動きとなっている。

■ **公共事業** 「前年を上回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第1四半期は、国が前年を下回っているものの、独立行政法人等、北海道、市町村が前年を上回っており、全体では前年を上回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を上回る」■ **企業倒産** 「件数は前年と同数」■ **消費者物価** 「前年を上回る」